

(平成29年度)

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台文学館
2	指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年4月1日から平成34年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 62,267人(前年度比 109.4%) 平成28年度 56,908人 平成27年度 63,929人 平成26年度 67,059人
		・施設の管理運営 ・特別展等の企画及び開催 ・文学資料の収集、保管
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 197,944千円(197,003千円) ・その他市が負担した費用 76,464千円(6,571千円) 《収入》 ・使用料収入 7,752千円(5,160千円) ・その他収入 1,362千円(1,049千円)
		()は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 ・ご意見箱を設置して、常時意見を頂いている。 ・特別展や企画展ごとのアンケート実施 ・施設利用者アンケートの実施(29年12月)

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的や運営基本方針を職員間でしっかり共有しているとともに、来館者にもきちんと周知している。子ども向けの企画を実施するなど、幅広い層に文学館に関心を抱いてもらえるよう取り組んでいる。今後も多くの来館者を得られるような工夫を期待する。	S
II	施設の運営管理体制	グループウェアや毎週の定例ミーティングを通じて、業務状況等がしっかり管理され、職員間で共有されている。経理は帳簿の整備保管も含めて適正に執行されている。個人情報保護、情報セキュリティ対策については、定例ミーティングや研修を通じて、職員間で共有しており、事故や災害発生時の対応体制についても明確になっている。	S
III	施設・設備の維持管理	建物・設備の点検等が適切に行われ、建物周囲の倒木や枝折れで落下の恐れのある樹木の事前伐採等もなされており、施設の安全確保に努めている。館内清掃のほか、敷地内の除草や池の清掃等もしっかりなされており、良好な景観の維持に努めている。施設管理に係る環境配慮のほか、来館者へ節水やごみ分別等の環境行動を促すなど、仙台市環境行動計画に則った取組みが継続されている。	S
IV	サービスの質の向上	職員の接遇マナーは良好であり、外部委託している受付スタッフについても研修等を通じて、来館者対応について教育・指導がなされている。様々な情報ツールを活用し、施設の利用案内やイベントの広報、施設情報を発信し、施設利用促進の取組みがなされている。定例ミーティングや研修等を通じて、業務の実施手順や情報の共有がなされているほか、利用者アンケートの実施・結果公表、苦情等への対応にもしっかり取り組んでおり、サービス向上の意識をもって業務を行っている。	S
V	施設固有の基準	使用許可及び観覧料徴収等に係る業務、再委託に係る業務は協定書や仕様書等に基づき適正に実施されており、施設設備の修繕等についても優先順位を考慮し、適切に実施、報告がなされている。各学芸員が研鑽に努めており、広い視点で文学を捉え、巡回展も組み込みながら、幅広いニーズに応じた質の高い展示を行っている。実習生受入や出前講座の実施など、地域に根差した活動も実施しているほか、館長による講座、文学を深く学ぶことのできるゼミナール、こまつ座公演など市内ホールとの連携による事業を実施するなど、施設の設置目的を効果的に達成するための自主事業も積極的に展開されている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	取組み状況
<p>1 (1)事業の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SMMA事業で「ミュージアムユニバース」を実施。「ミュージアムユニバース」では、「しおりづくり」の体験コーナーを設け、文学館のPRをはかった。歴ネット事業として、仙台ならではの「伝統門松」の展示やクイズラリーなどの連携事業を通じて他施設との連携を深めるとともに、文学館のPRを図った。また、クロスイベントとして、科学館と連携し、「え！？ほんにダイブ！！つくってみよう、あそんでみよう」を開催した。 ・報道関係各社と連携し、展示に関する記事を書いてもらうなど、事業のPRに努めた。また館内で営業している喫茶と連携し、特別展や企画展にちなんだメニューを出食してもらい、事業のPRを図った。 ・昨年度新たな文学情報を盛り込んでリニューアルした「せんだい文学マップ」の配布に力を入れ市民への周知を図った。 ・昨年度制作した絵本や児童書のガイドブック『この本おすすめ～「こども文学館えほんのひろば」お話会の皆さん+仙台文学館』の配布を継続し、子育て世代にむけたPRと普及活動にも力を入れた。 ・市内市民センター、民間のサロンや文学愛好団体への出前講座を積極的に行い、文学普及の活動と館のPRを図った。 ・県内中学校の来館時に、展示解説のほかにワークシートを用いての講義を行ったり、職場体験学習の生徒を受け入れたりするなど学校教育との連携にも力を入れた。 ・せんだいメディアテークで開催された「夏目漱石生誕150周年記念特別展示 夏目漱石～その魅力と周辺の人々」(主催:東北大学附属図書館)においては、郷土ゆかりの文学者と漱石のつながりを紹介するコーナーなどの展示協力を行い、市民が郷土の文学に触れる機会を提供するとともに、文学館の新しい客層の開拓に努めた(来場者のべ3,009人)。
<p>2 (2)市民サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民へ当館の情報を分かり易く提供するとともに、当館の魅力を広く周知し来館者増を図るため、ウェブサイトやフェイスブック等の随時更新を図り情報発信に力を入れた結果、ホームページの利用者とは異なる層へ情報が発信され、それに感想や意見が寄せられるなど、双方向性の拡大が見られた。 ・夏のこども文学館えほんのひろばでは、仙台出身の絵本作家として根強いファンを持つ、とよたかずひこ作品にちなんだオリジナルグッズを販売したり、絵本に登場する「でんしゃ」や登場キャラクターの模型と一緒に、写真撮影ができるコーナーを設けたりするなど、作品世界により興味を持つ仕掛けをつくり、来館者へのサービスを図った。 ・市民サービスの提供がスムーズにいくように、毎朝受付の職員との事務連絡、週1回の各委託業者(現場代表者)との事務連絡及びその直後に職員全員(囑託含む)での情報交換を行っている。 ・展示案内や大規模災害発生時の対応及び市民サービス向上を目的にWi-Fi設備を拡充した。 ・ホームページの施設紹介にGoogleストリートビューを導入し、館内外を鮮明に案内できるようにした。
<p>3 (3)施設管理関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災を経て開館19年を迎え、施設及び設備の老朽化が顕著になってきている。仙台市、委託業者の設備担当との連携、工夫、応急対応等により、支障をきたさないレベルでの施設運営ができています。 ・保存資料や借用展示物等の保護徹底を図るために実施した屋上全面防水工事においては、所管課と連携をとり、工事業者等との調整に尽力し、安全かつ円滑に工事が進められるよう努めた。 ・火災訓練時に、3人一組での消火栓操作など実践的な訓練を職員(委託業者含む)で効果的に行った。 ・倒木の可能性がある危険な樹木を事前に伐採した他、近隣住宅地の境界線を見回り支障が出そうな下草や灌木等の伐採整備を行った。 ・館内のトイレ案内表示を改善し弱視の方にも見えやすくした他、敷地内のサインも変更し行先への通行を分かりやすくした。 ・来館者に被害を及ぼすおそれのあるスズメ蜂や毒キノコ等について、季節に合わせたサインを用い、適切に注意喚起した。 ・職員により遊歩道のぬかるみ対策として碎石を散布したり、敷地内の段差をアスファルトで補修したりして悪路を改善した他、園路の白線引きや戶外ベンチの塗装等の修復も行った。
<p>加点評価</p>	
<p>S</p>	

四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》

施設の管理運営については、仙台市の施設所管課と協議を行いながら、関係法令等並びに協定書等に基づき適切に行った。仙台市の施設所管課とは必要に応じ適宜面談、電話、メールなどにより情報交換、相談し、その指導及び指示のもと、管理運営を適切に行えた。また、内部では毎朝の受付との事務連絡、毎週水曜日に各委託業者の現場代表者との事務連絡及びその直後に職員全員（囁託含む）で情報交換を行って連携して業務にあたることで、スムーズな市民サービスの提供が行えた。

観覧者については、26,129人と大幅な増となった26年度には及ばなかったが、観覧者数は開館以来の平均以上の水準を維持でき一定の安堵感がある。「こども文学館 えほんのひろば～でんしゃのつてももんちゃんがやってきました」とよたかずひこ絵本の世界」で5,386人、「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」で5,247人の観覧があり、他の分野と文学との関連を視野にいたれた企画展や、長く読み継がれた児童文学、ファンタジーを扱った企画展が好評を得ている。昨年に引き続き、市民ニーズに合った魅力的でかつ集客力のあるイベントの実施に力を入れた。

入館者については、62,267人と震災以降安定した入館者数を得ることができた。短歌・俳句・川柳の合同吟行会「ことばの祭典」、館長による「小池光短歌講座」や「仙台文学館ゼミナール」などに延べ14,227人の参加があり、集客力のあるイベントの重要性を認識させられ、今後も良いゼミナールやイベント等の企画及びその継続をしていきたい。

事業企画としては、企画展示及びその関連事業のほか、人気を博している館長による「小池光短歌講座」、文学に関するテーマごとにカリキュラムを設定した「文学館ゼミナール」の開催、文学作品を音楽や映像とともに朗読で味わう「ライブ文学館」、毎年3月に情報コーナーで開催している震災資料展の実施、また井上ひさし作・こまつ座公演「円生と志ん生」の上演や、企画展にあわせた展示室劇場の実施、「杜の都の演劇祭」への企画協力など多様な事業を行った。併せて、広く文学普及を図るため、学芸員の出前講座や職場体験など積極的に受け入れを行い、好評を得ている。

文学館の重要な使命のひとつである地域における文学資料の保存・継承については、29年度は30年3月末現在で、購入:1,046点、寄贈:1,327点を受け入れた。震災に関する書籍、雑誌、また2011年3月以降の新聞縮刷版等、震災を意識しての収集にも取り組んでいる。資料総数は約126,000点にのぼり、多くの方々の信頼を得て実績を積み上げている。

ホームページを随時迅速な更新を行うとともに、問い合わせ等にも適切に対応した。アクセス数は271,750件と増加し、市民へ当館の情報を分り易く提供するとともに、当館の魅力を広く周知し来館者増を図るため、フェイスブックやツイッターでの情報発信も積極的に実施し、来館数及び観覧者数の増加、特に若年層の増加につながってきている。

指定管理料確定額については197,944千円と昨年度を900千円ほど上回っているが、これは維持修繕の増加による。委託業務でメインになるものについては複数年の契約を結び単年あたりのコストを落とすことに努めている。また、2階・3階部分の照明のLED化などを行い、節電効果を上げた。今後も現地調査などを行い、省エネや節減の方策を検討し、経費削減に努めていきたい。

今後の課題として、入館者及び観覧者については震災以降安定して増加している状況ではあるが、より一層の観覧者（特に若年層）増に向けた取り組みを多角的に検討していきたい。また、施設管理面等では、開館から19年になり、各設備、特に建物本体や空調関係において経年劣化が原因で修繕費が高額になる不具合が頻発してきている。適宜仙台市と協議を行いながら修繕を実施してきたが、今後とも修繕が多く発生することが見込まれる。予算的制約はあるものの、仙台市と協議を密に行いながら、様々な問題に適切に対処していきたいと考えている。

《施設設置者（仙台市）による評価》

施設の運営管理に関しては、開館や施設貸出、帳簿等の整備保管を含む観覧料等などの公金の取扱い、保守点検や設備修繕・清掃等を含む施設の維持管理、個人情報保護や情報セキュリティ・情報公開への対応、事故や災害時等の危機管理体制の構築、その他施設運営に必要な書類の整備、諸手続きなど、関係法令や協定書に基づき、いずれも適正に実施されている。定例ミーティングや研修等を通して、業務の手順や必要な情報について職員間で共有されており、組織的な運営管理体制が構築されている。

特別展では、H29年度のNHK放映に合わせ話題性の高かった「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」、絵本をはじめ、村上春樹の本の表紙等で知られるイラストレーター安西水丸を取り上げ、年間観覧者数が平成28年度に比べ4,000人余り増となり、年齢や文学への関わり方等を含め幅広い層からの関心を集める展示内容であったものと評価できる。観覧者数増については、文学館の大きな課題であることから、今後も多くの方から注目を集める魅力ある展示を企画していただくとともに、企画の見どころ、面白さ等が伝わり、来館へつながるような広報戦略についても、工夫し取り組んでいただきたい。

また、館長による短歌講座、仙台文学館ゼミナール等には、合わせて延べ14,000名を超える方々が参加しており、文学館の設置目的である文学に関する知識の普及、利用者の教養の向上に大きく寄与している。市民センターや学校等での学芸員による出前講座についても積極的に行っており、これらの地域における文学知識の涵養に資する取組みは、文学館の存在意義を高めるものであることから、今後も継続していただきたい。

総合評価

S

◎ 評価担当課（施設所管課）：文化観光局文化スポーツ部文化振興課